

## (2) 区民との協働

**墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画（平成27年3月）【平成30年2月改訂】  
抜粋**

## (3) ニーズ調査

本計画の改訂にあたっては、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の現在の利用状況やこれからの利用希望を把握するため、「子ども・子育て支援ニーズ調査」を実施し、平成29年2月に集計結果報告書としてとりまとめました。

この調査により得られた結果は、計画の施策の方向性や、各種サービスの量の見込みと確保の内容を設定するための検討材料として活用しました。

対象者	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前の子どもの保護者	2,000	1,099	55.0%
小学生の保護者	1,500	729	48.6%
成人前	633	435	68.7%
高校生等	300	102	34.0%
中学2年生	333	333	100.0%
総計	4,133	2,263	54.8%

調査方法は、住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送にて調査票の配布と回収を実施しました。また、中学2年生においては、公立中学校の協力を得て、各校1クラスに調査を実施しました。

**コメント [21]: 【追記】**  
第5回会議にて、委員より御指摘いただき追記いたしました。

## (4) インタビュー調査

本計画の改訂にあたっては、ニーズ調査では十分に把握が難しい意見を把握するため、学童クラブ指導員・PTA、高校生、障害のある子どもをもつ保護者に対してインタビュー調査を実施しました。

学童クラブ指導員・PTAの方に対しては、子どもの育ちを支える立場としての意見を聞きました。

高校生に対しては、基本的な内容は成人前本人のニーズ調査と重複しますが、基本理念「子どもと親と地域が共に育ち、子どもの利益を優先するまち すみだ」を実現する観点から、夢や悩んでいることなどについて直接聞きました。

障害のある子どもをもつ保護者の方に対しては、ニーズ調査では対象者が少数となるため、直接意見を聞きました。

この調査により得られた結果は、計画の施策の方向性や、各種サービスの量の見込みと確保の内容を検討するための参考としました。

5年後の将来像	評価指標	策定時	直近値	目標値
【子ども】 心身ともに健康に育ち、すみだに愛着と誇りを持つ気持ちが育まれている	① 「将来子どもをほしい」と思う子どもの割合 ○中学生 ○高校生等	67.3% 63.9%	56.7% 69.1%	70.0% 70.0%
	② 墨田区に「ずっと住み続けたい」と思う子どもの割合 ○中学生 ○高校生等	45.3% 57.6%	45.6% 42.2%	65.0% 65.0%
	③ 現在の生活が「楽しい」と感じる子どもの割合 ○中学生・高校生等ともに	—	81.1%	86.0% ※1
【子育て家庭】 安心して子どもを 生み、子どもの尊い命 を守りながら、生きが いを持って子育てを している	① 子育ては「楽しいと感じることの方が多い」と感じる保護者の割合 ○乳幼児の保護者 ○小学生の保護者	66.1% 59.2%	49.5% 31.3%	72.0% 68.0%
	② “家族や周囲の理解・協力が得られずに子育てに不安や孤立感を感じる”ことは「ない」保護者の割合 ○乳幼児の保護者 ○小学生の保護者	27.9% 38.5%	20.2% 17.4%	55.0% 60.0%
	③ 父親が「自分から積極的に子育てに参加している」割合 ○乳幼児の保護者 ○小学生の保護者	53.1% 43.1%	49.1% 42.9%	56.0% 45.0%
	④ 父親が育児休業を取得した割合 ○乳幼児の保護者（目標は1か月以上取得）	1.6%	4.0%	6.0% ※2
【地域（企業含む）】 地域の力によりみ んなで子育てし、子ど もの未来への可能性 を引き出している	① 墨田区には「子育てを協力・支えあえる地域のつながりがある」と思っている保護者の割合 ○乳幼児の保護者 ○小学生の保護者	41.3% 43.6%	42.7% 53.3%	43.0% 58.0% ※3
	② ファミリーサポート会員・子育てサポーター数	215人	264人	300人
	③ 地域子育て支援拠点事業（ひろば事業）の利用度 ○乳幼児の保護者	29.8%	28.8%	33.0%
	④ 企業・事業者によるキャリア教育等（外部講師派遣、職場体験、生徒のボランティア活動支援、学習活動の支援等）の実施回数（学校支援ネットワーク本部での把握分）	311回	363回	400回

※1 策定当初 65.0%をめざしていたが、直近値 81.1%で達成したため、その値から約5%を上乗せ、86.0%を目標値と改めた。

※2 策定当初の目標値は3.0%だったが、直近値4.0%で達成したため、その値から2%を上乗せ、6.0%を目標値と改めた。

※3 策定当初の目標値は48.0%だったが、直近値53.3%で達成したため、その値から約5%を上乗せ、58.0%を目標値と改めた。

コメント [22]: 【追記】  
第5回会議にて、委員より御指摘いただき追記いたしました。

ことができるよう、地域子育て支援拠点（子育てひろば）同士の横のつながり、認定こども園や幼稚園、保育園、子育て支援総合センターとの役割の違う機関とつながりを強化し、地域における子育て支援ネットワークを構築することが求められる。

さらに、子育てひろばが日曜日も運営されていることから、父親の利用も多く、また、「パパのための出産準備クラス」も人気で、子育てに関わる父親は確実に増加している。父親同士がつながりやすい環境をつくることにより、地域子育て支援拠点（子育てひろば）の居場所づくりに父親がより積極的参画することが期待される。

### 3 子ども主体の協同的な学びプロジェクトと地域子育て支援拠点からつながる地域子育て支援ネットワーク化の提案

これらの課題を踏まえ、平成27年度から取り組む事業として、「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」と「地域子育て支援拠点から繋がる地域子育て支援ネットワーク実現に向けた勉強会」を提案する。

#### （1）子ども主体の協同的な学びプロジェクト

幼保連携型認定こども園の新設及び既存園の移行に当たって、教育・保育の量的拡大とともに、教育・保育の質的向上が求められている。そのため、子ども主体の協同的な学びの実践に向けて、まずは発表園において実践し、実践活動の進捗確認及び公開保育の実施のためのプロジェクト会議を開催する。

#### 1) 発表園における実践活動、公開保育

認定こども園、幼稚園、認可保育園発表園（4園）において、「子ども主体の協同的な学び」を実践する。その実践の状況や成果を公開保育で発表するとともに事例集としてとりまとめる。

##### ●実施内容

- ・発表園ごとにアドバイザー1名が支援する。
- ・アドバイザーは、園が求める研修及び相談活動を行う。（年3回）

例) 実施方法の相談

参考事例の紹介

実践を見てアドバイス

公開保育の内容の相談 など

- ・実践の経過や成果を公開保育として発表する。

#### 2) プロジェクト会議の開催

発表園における実践活動の経過の確認、アドバイス、公開保育及び事後検討会議の実施方法の検討のため、プロジェクト会議を開催する。（年3回）

##### ●各回の検討内容（イメージ）

- 第1回：プロジェクトの内容の確認（1年間のスケジュール、実践に当たっての統一事項等）
- 第2回：プロジェクトの中間報告、公開保育の実施方法
- 第3回：公開保育後の事例集のとりまとめ

コメント [23]: 【修正】

第5回会議にて、委員より御指摘いただいた、この項目の文章の乱れを修正いたしました。

### 3) 公開保育

発表園における実践活動を公開保育形式で発表する。(発表園ごとに1回、計4回)

#### ●公開保育の内容

- ・発表園職員及びプロジェクト会議メンバー、保護者等が参加する。
- ・公開保育による子ども主体の協同的な学びプロジェクト
- ・発表園職員、プロジェクト会議メンバーによる事後検討会を行う。

### 4) プロジェクト事例集の作成

子ども主体の協同的な学びプロジェクトの実施過程、プロジェクト発表会の発表内容、事後検討会の内容をプロジェクト事例集としてとりまとめる。

#### ●事例集の活用イメージ

- ・保護者に伝える記録方法
- ・室内環境の工夫
- ・幼稚園、保育園と小学校との連携
- ・計画→実践→振り返り→園内共有→評価→次のカリキュラムのサイクル
- ・成果の定義(年齢ごとの育てたい子どもの力とは何か。)

## (2) 地域子育て支援拠点からつながる地域子育て支援ネットワークの実現に向けた勉強会

地域子育て支援拠点の機能向上、多様な実施施設の増加に備えて、地域子育て支援拠点間の情報共有、地域子育て支援拠点と他の施設との情報共有などを通じた地域ネットワーク強化に向けて、現状の把握と今後の方向性について検討するための勉強会を開催する。

#### ●勉強会の内容(イメージ)

- ・墨田区内の地域子育て支援拠点の活動内容及び課題の共有
- ・課題からいくつか論点を抽出し、区内や他区市町村の施設における活動事例等をレビュー
- ・パパのための出産準備クラスの受講生や子育てひろばを利用するパパなどのネットワーク化
- ・来年度取り組むモデル事業案を検討